

シンポジウム 宇宙大の熊楠

南方熊楠の思考は宇宙と同じほどの大きさをもっている。
地球上の森羅万象の出来事を見つめながら、星辰の世界にも探求のまなざしを向けていた。
大空の自然と地上の自然を同時に思考した熊楠を考える試み。

★基調講演

「地上の自然」



中沢新一（明治大学野生の科学研究所所長）

地球上の森羅万象をとらえる南方熊楠の思考の構造についてお話しします。

脳と自然はどうしたらレゾナンス（共鳴）するか。

「熊楠の「星」をめぐって」



鏡リュウジ（占星術研究家）

南方熊楠のデビュー論文は、英国「ネイチャー」に掲載された「東洋の星座」と題された小論でした。国際的な文人、熊楠は「星」とともに誕生したのです。そして、この論文が掲載された時代は、英国において占星術が復興する時代でもありました。熊楠を導いた星はどんなものだったのでしょうか。そしてその時代に読み解かれた星とはどのようなものだったのでしょうか。

熊楠と見えないつながりをもっているであろう、星を辿り、精神の星座をつないでみようと思います。

★パネルディスカッション

パネリスト

中沢新一（明治大学野生の科学研究所所長）

鏡リュウジ（占星術研究家）

曾我部大剛（熊楠菩提寺 高山寺住職）

真砂充敏（和歌山県田辺市長・南方熊楠顕彰会会長）

コーディネーター

唐澤太輔（龍谷大学世界仏教文化研究センター 博士研究員）

★会場で田辺市観光PR実施予定。

熊楠が後半生を過ごしたまちを知ろう！

日時：2017年3月4日（土）

13:30～16:30頃（開場13:00～）

会場：明治大学 駿河台キャンパス

リバティタワー1F リバティホール

入場：無料

定員：400名（要申込）

お問い合わせ・お申込み

電話・FAX・電子メールでのお申込み

「シンポジウム参加」の旨及び①氏名（フリガナ）、②年齢、③住所、④電話番号（携帯電話があれば携帯の電話番号）をお知らせください。

南方熊楠顕彰館

電話：0739-26-9909 FAX：0739-26-9913

e-mail: minakata.sympto@city.tanabe.lg.jp

主催／明治大学野生の科学研究所、南方熊楠顕彰会

協力／田辺観光協会 後援／和歌山県田辺市



シンポジウム 宇宙大の熊楠



中沢新一

1950年山梨県生まれ。思想家・人類学者。東京大学大学院人文科学研究科宗教学専攻博士課程満期退学。現在明治大学野生の科学研究所所長。著書に『チベットのモーツァルト』(サントリー学芸賞)、『森のバロック』(読売文学賞)、『フィロソフィア・ヤポニカ』(伊藤整文学賞)、『カイエ・ソバージュ〜V』(第五巻「対称性人類学」で小林秀雄賞)、『アースダイバー』(桑原武夫学芸賞)、『野生の科学』、『日本文学の大地』、『熊楠の星の時間』ほか多数。2016年5月第26回南方熊楠賞(人文の部)受賞。

鏡リュウジ

1968年京都府生まれ。占星術研究者・翻訳家。国際基督教大学(ICU)卒業、同大学院修士課程(比較文化)修了。英国占星術協会、英国職業占星術協会会員、日本トランスパーソナル学会理事。平安女学院大学客員教授、京都文教大学客員教授。ユング派心理学者の著書翻訳から古い実用本まで幅広い著述、翻訳活動を行う。



曾我部大剛

1959年和歌山県田辺市生まれ。大谷大学で仏教学を専攻、卒業。観音寺(田辺市稲成町)住職を経て、1991年より熊楠の菩提寺である高山寺(田辺市稲成町)住職。和歌山県立博物館協議会委員、和歌山県文化保護協会評議員、南方熊楠賞運営協議会副会長

真砂充敏

1957年和歌山県田辺市(旧中辺路町)生まれ。修成建設専門学校卒業。旧中辺路町議会議員、旧中辺路町長を経て、2005年5月の市町村合併により新田辺市が誕生し、初代市長に就任、現在に至る。旧中辺路町長時代に「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界文化遺産登録に携わる。



唐澤太輔

1978年、兵庫県神戸市生まれ。慶応義塾大学文学部卒業。早稲田大学大学院社会科学部・博士後期課程修了(博士[学術])。日本学術振興会特別研究員(DC-2)、早稲田大学社会科学総合学術院・助手、助教を経て、現在、同大学国際言語文化研究所・招聘研究員。龍谷大学世界仏教文化研究センター・博士研究員。著書に『南方熊楠の見た夢―パサージュに立つ者―』、『南方熊楠―日本人の可能性の極限―』など。



明治大学野生の科学研究所

現代は眼と大脳を偏重する文明をつくりだした。世界にあるあらゆるものが可視化できると信じて、人工の眼をいたるところに設置して、モニターを続けている。大脳は世界を情報として読み取り、そこに含まれているパターンを意味として取り出そうとしている。そんな風に世界が可視化され、情報として読み出されるようになれば、世界を管理するのはきわめて容易になる。世界をなだめ、平準化して管理すること、一言で言えば世界を家畜化することを、都市というものが発生した新石器時代以来、人類はずっと求めてつづけてきた。世界を家畜化するこの夢は、驚異的な発達を遂げた現代の技術によって、いまやひとつの現実となりつつある。

しかし、ほんとうに世界は家畜化されつくしてしまったりするものなのだろうか。カメラやセンサーをすり抜けていく微細な現実が、世界には満ち溢れている。視覚化できない力やイメージが、世界の隙間をぐり抜けて流動し続けている。大脳過程を模倣したアルゴリズム(計算手順)では、計算することのできない複雑な過程が、いまこの瞬間にも世界の土台を織り上げつづけている。家畜化された思考には、そのことが見えない。しかし、家畜化されていない野生状態にある世界は、いまだにここにあって、絶え間のない活動を続けているのである。

野生の科学研究所は、そのいまだに野生状態にある世界の姿をとらえることのできる方法を開発することをめざしている。コンピューターを超えるアルゴリズムを備えた自然にむかって開かれた思考を、ひとつの確実な方法を備えた科学として生み出そうと考えている。野生の科学はいままで存在しなかった学問である。しかし、それはいまもっともその創出が求められている学問でもある。野生の科学には大きな可能性がある。なぜなら、人類の抱える潜在的な心の能力が、いまだに野生の状態にあるからである。

●明治大学野生の科学研究所 <http://sauvage.jp>

和歌山県田辺市

海と山の美しい風景に包まれた田辺市沿岸部(田辺エリア)は、かつて「牟婁の津」と呼ばれ、熊野詣が盛んになった平安時代中期以降は、熊野古道中辺路と大辺路との分岐点であったことから「口熊野」と呼ばれるようになり、熊野三山に向かう宿場町、水陸交通の要衝として栄えてきました。そして江戸時代には、紀州藩主徳川頼宣公の附家老安藤直次のもと城下町として栄え、紀南の政治・経済・文化の中心地として発展してきました。英雄・文化人も多く輩出し、なかでも田辺の三偉人といわれる武蔵坊弁慶、博物学・民俗学の南方熊楠翁、合気道の開祖植芝盛平翁などが有名で、昨年世界遺産に追加登録された羅摩神社や高山寺といった、こうした偉人のゆかりの地も市内のあちこちに残されています。

自然景観では、市街地を少し外れると日本のナショナルトラスト運動のさきがけとして有名な天神崎をはじめ、桜と紅葉の名所である奇絶峡、一目三十万本と謳われる紀州石神田辺梅林を有するなど、風光明媚なところでもあります。

また、温暖湿潤な気候を活かした果樹栽培、特に梅の生産が盛んで、梅干しや梅酒などは当地を代表する特産品です。カツオやシラス、紀州イサキといった海の幸も豊富で、こうした新鮮な食材を使った料理を提供する飲食店も多く、とりわけ200軒以上が軒を連ねる「味光路」は県内でも有数の飲食店街として週末ともなれば多くの人出で賑わいます。

2005年の市町村合併で世界遺産「熊野古道中辺路」や「熊野本宮大社」に代表される古い歴史や文化、日本三美人の湯で知られる「龍神温泉」や日本最古の湯といわれる「湯の峰温泉」等の温泉郷も同じ「田辺市」となっています。

●田辺観光協会 <http://www.tanabe-kanko.jp>

